

令和 8 年度 秦野支援学校 不祥事ゼロプログラム

秦野支援学校は、不祥事の発生をゼロにすることを目的として、次のとおり不祥事ゼロプログラムを定める。

1. 実施責任者・実施体系

- 校長 : プログラムの実施責任者として、すべての指揮にあたる。
 副校長・教頭・事務長 : 校長を補佐し、不祥事防止会議等の指揮にあたる。
 総括教諭 : 校長・副校長・教頭・事務長を補佐・補助する。
 不祥事防止会議 : プログラムの策定・実行・検証の中核となる。
 全職員 : プログラムの実行の主体となり、不祥事の防止に努める。

2. 策定の方針及び取組方法

- ①実効性・継続性のある取組とし、不祥事の未然防止を図る。
- ②職員一人ひとりが主体的に不祥事防止について考え、行動できるような取組（教職員の当事者意識の醸成）とする。
- ③学校全体の不祥事防止会議、不祥事防止研修、部門・学部・課程ごとの検討会、職員個々の自己チェックの実施（机上整理を含む）により取り組む。

3. 目標及び行動計画

| 取組課題 | 目 標 | 行 動 計 画 |
|-----------------------------|---|--|
| 1. 法令遵守意識の向上（法令の遵守、服務規律の徹底） | <ul style="list-style-type: none"> ・公務外非行の防止の意識を高める ・根拠に基づいた適切に服務規律の徹底を図る | <ul style="list-style-type: none"> ・部門課程でテーマに沿った協議を行い、校内研修で共有を行う。 ・様々な機会、研修等で事例を共有して法令遵守の意識を高める。 ・各規約やハンドブック等を活用して、ルールや根拠を確認しやすい環境を整える。 |
| 2. 職場のハラスメントの防止 | <ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメントへの理解を深める ・同僚性の向上を図る | <ul style="list-style-type: none"> ・部門課程でテーマに沿った協議を行い、校内研修で共有を行う。 ・コミュニケーションの取りやすい職場環境を整え、同僚性の熟成を図る。 |
| 3. 児童・生徒へのわいせつ・セクハラ行為の防止 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒へのわいせつ・セクハラ行為の理解を深める ・わいせつ・セクハラにつながる適切な対応の徹底を図る | <ul style="list-style-type: none"> ・部門課程でテーマに沿った協議を行い、校内研修で共有を行う。 ・啓発資料や自己チェックの周知により、わいせつ・セクハラへの意識向上と注意喚起を行う。 ・気にかかる状況を起こさない環境や体制を整える。 |
| 4. 体罰、不適切な指導の防止 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の人権の尊重を十分に意識した指導を行う ・適切な関わり方についての共通認識を深める | <ul style="list-style-type: none"> ・部門課程でテーマに沿った協議を行い、校内研修で共有を行う。 ・作成された「関わりのスタンダード」の内容の周知と理解を職員間で徹底する。 ・啓発資料や自己チェックの周知により、体罰・不適切な指導への意識向上と注意喚起を行う。 |

| | | |
|--------------------------------------|--|--|
| 5. 入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止 | <ul style="list-style-type: none"> ・業務内容の大切さを十分に意識した業務遂行を図る ・事故やミスのない業務体制を徹底する | <ul style="list-style-type: none"> ・部門課程でテーマに沿った協議を行い、校内研修で共有を行う。 ・業務に関する計画、マニュアルに沿った適切な業務を徹底する。 ・整理された環境作りと複数でチェックできる体制の整備を行う。 |
| 6. 個人情報等の管理、情報セキュリティ対策 | <ul style="list-style-type: none"> ・適切な管理のための手順の共有と環境の整備を図る ・リスクを理解した個人情報を扱いへの意識向上を図る | <ul style="list-style-type: none"> ・部門課程でテーマに沿った協議を行い、校内研修で共有を行う。 ・様々なツールを活用して、必要に応じて適宜ルールを理解について発信を行う。 ・個人情報の管理状況を関係各部署でチェックする環境と体制を整える。 |
| 7. 業務執行体制の確保等（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制） | <ul style="list-style-type: none"> ・円滑なコミュニケーションが図れる組織の風土を熟成する ・相互チェック、情報を確認し合える体制を整える | <ul style="list-style-type: none"> ・部門課程でテーマに沿った協議を行い、校内研修で共有を行う。 ・顔の見える関係作りを大切にすると共に、様々なツールの活用や方策を講じて、離れた校舎間でも円滑なコミュニケーションを活性化させる。 |

4. 検証

行動計画について令和9年2月に実施状況を確認して、各項目についての評価を行う。また、学校運営協議会やホームページに本校の不祥事ゼロプログラムの取組を提示し、意見を聴取する機会を設ける。最終検証を令和9年3月に行い、自己評価を実施して結果をまとめる。その結果を、次年度の秦野支援学校不祥事ゼロプログラムの策定に反映させる。

5. 実施結果

不祥事ゼロプログラムは本校ホームページに掲載して公表する。